

「第五次子どもプラン武蔵野」 策定に係る

子育てひろばネットワーク ワークショップ

ー実施報告書ー

「第五次子どもプラン武蔵野」策定にあたり、サービス提供側としての意見を伺うため、**子育て支援に関わる団体、施設、専門機関の皆様**にお集まりいただき、「今求められる子育て支援とは？」をテーマに、現場でのニーズから導き出すあるべき姿、市・団体ができることは何か、を出し合っていました。

テーマ 「いま求められる子育て支援とは？」

～概要～

開催日：平成30年12月9日（日）

場 所：武蔵野市役所 811会議室

対 象：武蔵野市子育てひろばネットワーク※参加団体の皆様

形 式：5グループに分かれ、グループ毎に意見出し・共有・まとめを行い、
全体で発表・共有を実施



＜ワークショップ参加団体一覧＞ ◆31団体招請し、18団体20名の皆さまに参加していただきました。
0・1・2歳親子ひろばさくらんぼ（千川福祉会）、0123はらっぱ、0123吉祥寺、おもちゃのぐるりん、
けやきこもれびひろば、サニーママ武蔵野（みずきっこ）、さんりんしゃの会、すくすく泉、はちコミほんわか隊、
まちの保育園吉祥寺、吉祥寺南町コミュニティ協議会、境おやこひろば、桜堤児童館、
西久保コミセンひろばピノキオ、地域療育相談室ハビット、NPO法人子育て応援スペースとことこ、
NPO法人保育サービスひまわりママ、武蔵野市助産師会（仮名順）

流れ	内 容
[オリエンテーション] 13:00～	■ 「第四次子どもプラン武蔵野」について ■ ワークショップの趣旨、進め方について
[前半] 13:40～	「利用者目線で課題を出してみよう」 ■ ワーク1 いま子育て世代が求めていること（ニーズ）は？ ー最近の活動の中での気づき、以前との変化、その背景 ■ ワーク2 対応できていること、できていないこと（課題） ■ 全体共有
[後半] 15:00～	「子育て支援のあるべき姿と私たち・市ができること」 ■ ワーク3 ニーズから導き出すあるべき姿は？ ー子育て支援のあり方（今後5年間を見据えて） ■ ワーク4 私たち(団体)ができることは、市にしてほしいことは？ ■ 全体共有

※「武蔵野市子育てひろばネットワーク」には、市内で子育てひろばを運営している子育て支援団体(グループ)、地域子育て支援拠点施設や子育て支援に関わる専門施設、行政機関が所属しています。

「利用者目線で課題を出してみよう」

ワーク1 いま子育て世代がもめていること（ニーズ）は？

ー最近の活動の中での気づき、以前との変化、その背景ー

●各グループから出された意見をカテゴリー別にまとめました。

<親になるための教育>

- ・妊娠中から子育て支援事業を知ってもらうには・・産後どこを頼ったらいいか、妊娠中に見学・体験する。
- ・赤ちゃんとの遊び方がわからない
- ・子どもに対して早期教育。
- ・教えてほしい（受身多）ベジマ、ヨガ
- ・子供とは・子育てとは、を知る場・機会

<低月齢のサポート>

- ・ひろばデビューの月齢が小さくなっている。3ヶ月→1.5か月
- ・第1子低月齢時の不安
- ・切れ目のない支援

<相談・アドバイス>

- ・自分の子育てが良いのか見てくれる方がいるとよい。
- ・同年代だけでない構成スタッフ
- ・多様な情報に迷いがある、選べない。
- ・正解（悩みや困り事について）
- ・気軽に相談できる場所・人
- ・すぐに答えがほしい
- ・我が子が何をできて何が足りないのかわからない、知りたい
- ・ワンオペ育児状態にある人
→相談相手、解消する術、サポート
- ・困り事、わからない事を相談できる場

<最近の親の傾向>

- ・子育てのノウハウをよく知っている
- ・便利・楽をうまく使う。自由さ
- ・SNS等キラキラママ⇔傷つく人
- ・あふれる情報に対応している人とそうでない人と差がある。
- ・あまり集団で群れていない。コミュニケーション苦手
- ・今のママ達はグループを作らない

<父親の育児への関わり>

- ・パートナーの協力
- ・平日にパパが子連れで行ける場所
- ・父親が育児にかかわりたい
- ・子育て中の父親たちが集まれるチャンスがあれば！
- ・夫の理解、育児参加への啓もうアプローチ
- ・父親の育児参加しやすい機会提供
- ・父親の育休取得の割合アップ
- ・育休をとるパパの増加
- ・父親の育児参加



<息抜きしたいニーズ>

- ・ひろばに来て子どもを見ず、スマホを見ている。
スタッフにみていて欲しい？
- ・双子ちゃんは人手を欲して施設に来ることがある。
- ・預けたい（自分の時間）
- ・同世代とおしゃべり
- ・レスパイト
- ・休める時間 ホットする 趣味を楽しむ
- ・託児付きの親が学べる場所（イベント）
- ・大人と話がしたい
- ・母親自身が癒されたい。
- ・夕方以降、子と二人きり…つらい
- ・日常的に自由に利用できるスペースがあると、子育てママの息抜きになるのではないか。

<預かり保育>

- ・保育園・幼稚園を利用できない人の頼れる場所・人
- ・心を寄せられる一時保育利用のしやすさ、環境づくり
- ・一時保育の改善、ITの利用！
- ・働き方の多様化（パート、在宅、時短、夕方からなど）
- ・トワイライトステイなど
- ・日・祝
- ・保育園利用者の増加？（1歳～）
- ・ひろば+預かりは良い（慣れているので安心感がある！）
- ・ひまわりママ、ファミサポとひろばの連携があるとよい
- ・保育園、幼稚園の預かり保育の充実
- ・日常の中のちょっとした必要時に子どもを預かってほしい
- ・簡単にすぐ子どもを預けたい。
- ・一時保育の充実

<土曜（日・祝）ニーズ ～パパ、働く人～>

- ・土曜日、父親と利用増。（お疲れのようなお父さんもいる。）父同士の交流無い。
- ・学生ボランティアさんがとても頼りになる（土曜日）。
- ・保育園、働き始めた人が、地域とつながり続ける活動の場が大切（土曜ひろば）
- ・土日に親子で行ける（参加できる）場所

<子どものあそび場>

- ・子どもの遊び場（居場所）
- ・小中学生が安心して過ごせる児童館
- ・小中学生と小さい子、赤ちゃんとの出会いの場は必要
- ・交通ルールを学ぶなど、バリエーションがあるとよい！
- ・子どもたちが地域とつながるハードルの低い、多様な入口
- ・多子（一家庭3人とかをよくみかける。）多年齢でいっしょに行けるところは必要。
- ・子連れで集まる時、何かしらイベント(テーマ)を求めている。
- ・親子共々楽しめる場所

<保護者どうしの交流>

- ・保護者どうしの交流の場
- ・小さくとも点在していることが大切。《顔見知りの関係
- ・スタッフや利用者同士が顔見知りになれる親子ひろば。
- ・共有・共感し合える仲間作り、交流の場。
- ・子育ての仲間がほしい
- ・友だち（子ども）
- ・ママの友だち
- ・同年齢との出会い

<ハードルの低さ・多様性>

- ・身近で遊びに行ける場所
- ・気軽に立ち寄れるところ
- ・入口が低い、多様なことが大切
- ・1人でも(友人と約束しなくても)行きやすい施設が必要
- ・バラバラの目的別に集まれるには…
- ・市外、一時帰国の方の行ける（利用できる）施設が少ない。
- ・元気じゃないママ・（パパ）の行き場
- ・障害児の保護者の行き場
- ・「幼稚園入口前が地獄だった」（見えない障がい）
- ・子育ての一部としての障害（not障害児育て）
- ・「普通」の子育て・地域コミュニケーションから外れるイメージ

<情報提供>

- ・周辺情報が分からない（転入）知り合いがいない

<開所時間延長>

- ・17時くらいまで開館してほしい。
- ・9～10時、16～18時頃まで開いている所が少ない。

<食を通して、商店・まちの協力>

- ・子育て応援券の実現
- ・安心して食事やお茶のできる店があるといいのでは
- ・食事スペースにスタッフがいて欲しい（離乳食の悩み）

<地域とのつながり>

- ・子育て世代が地域とつながる、ハードルの低い、多様な入口
- ・地域の人とのつながり
- ・地域食堂、子ども食堂、カフェなど（食でつながる）
- ・地域のお祭りなど、パパ・ママと遊びにきてくれるようになった。

<自主活動>

- ・地域活動をやる場所が無い
- ・地域活動≠ボランティア、≠公とのつながり
- ・自分で活動を立ち上げる人の増加(ヨガレッスン、手芸)
- ・他の団体（コミュニティ支援の団体）との連携

<その他>

- ・健康、高い社会性コミュニケーション力を備えた保護者向けデザイン
- ・離乳食の悩みは、いつの時代も同じ。食事スペースにスタッフがいることが大切。

ワーク2 対応できていること、できていないこと(課題)

ー対応できていることー

●各グループから出された意見をカテゴリー別にまとめました。

<親になるための教育・低月齢のサポート>

- ・保護者が知りたいことにあったセミナーを開催（保育園、幼稚園、学童）
- ・赤ちゃんとの遊び方についてはその場で（ひろばの中で）アドバイスしている
- ・わらべうた、手あそびの時間
- ・思春期教育（小・中・高）
- ・妊娠中からのアプローチ（両親学級、母親学級、妊婦訪問）
- ・マタニティフェス、子育てフェスへの開催に協力
- ・こんにちは赤ちゃん訪問、全家庭

<相談・アドバイス>

- ・先輩お母さんからの失敗談や工夫などの対話ができる時間
- ・巡回相談
- ・ファミサポ事業への協力
- ・継続相談
- ・報告書や支援シート
- ・悩みやこまりごとをもっているママの話をきいてあげる
- ・自分の子どもがちゃんと月齢で育てているのか？他の子を比べてしまうママなど同じ悩みを持つママを繋げてあげる。
- ・相談できる、しやすい環境作り(ex.託児付相談1回/週)

<父親の育児への関わり>

- ・スタッフに男性（パパ）がいる
- ・パパ対象の子育て講座
- ・父親向けの情報交換掲示板の設置
- ・父親参加（対象）の講座の開催

<土曜（日・祝）ニーズ ～パパ、働く人～>

- ・土曜に親子ひろばを毎月やっている
- ・日曜におやこひろばを開催
- ・土曜開所（ハビット以外の支援施設も）



<息抜きしたいニーズ>

- ・スタッフがお子さんと遊んで過す、少し一緒にゲームしたり…
- ・1人で来る人、双子ちゃんにはスタッフが手を貸す、話しかける。
- ・保護者以外の大人の手が必要な場合、声かけしてフォローする。
- ・大人同士で話したい方、スタッフが話したり他の方に話を振ったりする。
- ・街でママたちに遭った時に言葉をかけ合い、応援していることが伝わるようにしている
- ・大丈夫だよ、と伝えている
- ・場所を提供すること（要望にあわせて）
- ・定期的に集まる会が終わっても、再会できる場がある。
- ・ママ部活 大人だけで話をする時間、活動（子どもはスタッフが見守る）
- ・託児付講座、絵本セラピー





<ハードルの低さ・多様性>

- ・初めてひろばにいらした方への声かけ
- ・コミセン親子ひろば コラボノなど小回りのきくひろば事業
- ・理由を問わない、障害等特別な対応が必要な場合を含む、（シャットアウトしない）一時預かり
- ・子どもと親子で過ごしたい方は見守る。
- ・市の母子保健事業、民間団体との協働・連携
- ・イベント表作り。イベント日、イベントの無い日をお知らせしている。
- ・はちコミでは午前中自由に利用できる「わくわくルーム」の開放をしている。
- ・団体同士のつながり

<保護者どうしの交流>

- ・出身地マップ（スタッフ含め）
- ・利用者同士のQ & Aボード（テーマを出す）

<情報提供>

- ・地域（主に武蔵境）の子育て支援情報をブログに掲載している。
- ・すくすくナビ
- ・ひろばmap、すくすくの情報発信
- ・情報ファイルの整理・見直し
- ・地域の情報、遊び場の情報、相談窓口の情報の提供

<食を通して、商店・まちの協力>

- ・「MIDORINO_」など集まることを目的とした商店街のカフェもある
- ・こらぼの→ひろばの後に食事OKのひろばもある
- ・常設ひろば→食事スペース有。スタッフも近くにいる
- ・親子ひろばでティータイムを取り入れ、おしゃべりとリラックス、ママ同士の交流を図っている。効果的だと感じる。
- ・ひろばの後、同じ場所にて親子同士食事会をしている。お誘いも声掛けもしている。
- ・おやひろばの後ランチ会

<地域とのつながり>

- ・高齢者センター、学生ボランティアとのつながりをひろばに活かす。
- ・地域の方とつながりたい方がいたら、スタッフが仲介役となり間をつなぐ

<自主活動>

- ・児童館をなかまほいくの会に開放
- ・利用者主催の講座開催のサポート
- ・お母さんたちのやりたいことをサポートするため、部屋貸し



＜親になるための教育・低月齢のサポート＞

- ・保護者向け講座
- ・子育て講座的なものの中でトピックとして取扱い(育てにくさ)
- ・出産後の両親学級で子育て力フォローアップ
- ・妊婦さんの集まる場を作りたい
- ・妊婦さんの来所 ※実際の来所につなげる仕組みづくり
- ・プレママからのつながり

＜預かり保育＞

- ・情報が一元化されていない（+ 民間と公の壁）
- ・インクルージョン

＜父親の育児への関わり＞

- ・父親と子どもが主役のイベント
- ・お父さんが語り合える場を作りたい
- ・パパ同士をつなげる

＜相談・アドバイス＞

- ・産後ケア事業の拡大、宿泊型
- ・母のニーズにすぐ対応できるシステム
- ・心の声に気付けるような対応

＜土曜（日・祝）ニーズ ～パパ、働く人～＞

- ・常設でもたまには土日に関きたい
- ・いつでも来園できるようなスペースが用意できていない
- ・土曜日のひろば

＜子どものあそび場＞

- ・（子どもの遊び場、居場所、児童館）もっと必要
- ・ 交通ルールを学ぶ場所（他市にはある）

＜情報提供＞

- ・世代間でのアドバイス
- ・サイトの充実（施設機能）
- ・こんな時に、こんな困った！を支えてくれるグループの人の情報を届けるプラットフォーム
- ・各施設が一括入力できるイベント表

＜ハードルの低さ・多様性＞ ・敷居を低くする

- ・多様性の確保
- ・つなげるチカラ
- ・色々な特性の子に対応できるノウハウ
- ・環境、空間
- ・貧困対策
- ・外国人あつまれの時間
- ・障害の人、気になる人あつまれの時間

＜開所時間延長＞

- ・9～10時、16～18時は開館できていない
- ・利用時間の延長。閉館が帰るきっかけになっている方もいるのでは。

＜食を通して、商店・まちの協力＞

- 食事をとおして ～商店・街の協力～
- ・子連れ歓迎のお店には置き畳 2 畳プレゼント
→商店街の協力
- ・スタッフの中にパン作りをしたいのにできない
- ・ひろば事業の充実、caféのような身近な所の設置

＜地域とのつながり＞

- ・小さい拠点がたくさんあればよい（市には要綱がない）
- ・近所、同じ学区の子との出会い

＜自主活動＞

- ・公が無償でやっているのでもわらない（例：ベビーマッサージ）
- ・サービス提供者としては、講師無償（健康づくり支援センターなど）はありがたい。
（人件費がとれないサークル活動としては…でも、人件費が取れないのが問題では？
- ・貧困家庭などには無料はありがたい。クーポンは？
託児が費用がかかるため実現できていない（市のイベントは無償が多く、有償は受け入れにくい）

「子育て支援のあるべき姿と、私たち・市ができること」

ワーク3 ニーズから導き出すあるべき姿は？

ワーク4 私たち（団体）ができることは、市にしてほしいことは？

●各グループから出された意見のキーワードをまとめました。

＜ワーク3：子育て支援のあるべき姿＞

- ・妊娠期からの支援
- ・様々な機関、施設どうしの連携
- ・知る、つながる総合窓口
- ・情報、ニーズのプラットフォーム
- ・様々なサービスのコーディネート、ニーズのひろいあげ
- ・父親の子育て参加の応援
- ・父親、母親の役割の壁をなくす
- ・子育て力をつける支援
- ・地域ぐるみでの支援
- ・多世代で子育てをサポート
- ・地域、社会が子どもを育てる
- ・おせっかい、ネットワーク、つながり
- ・子どもは地域の宝
- ・親も子どものびのび、すくすく
- ・子育ては楽しさを実感できる社会
- ・焦らない、競わない子育て
- ・声をあげない家庭への支援
- ・貧困への理解、支援
- ・第2子以降の費用助成
- ・多様な居場所
- ・多様性の受け入れ、価値観、知識の共有
- ・障がいがあっても一緒に子育て
- ・支援者の循環（支援を受ける側と支援する側）
- ・おたがいさま、共助の文化
- ・支援人材の発掘・安定、支援者側の勉強会
- ・多様性をささえる担い手
- ・脱地域まかせ

＜ワーク4：私たち（団体）ができること＞

- ・利用者の思い、悩みを丁寧にききとる
- ・利用者の求めることをくみ取る。
- ・産後ケア、育児相談（専門職による）
- ・出会いの場、世代間交流の場の提供
- ・サークル活動、勉強会、行事の開催
- ・土日のイベント、ひろばの開催
- ・ひろばの延長の預けあい
- ・利用者から支援者になってもらう取り組み
- ・団体の個性を生かした取り組み
- ・流行だけに流されない取り組み
- ・情報提供、地域の情報のプラットフォーム
- ・ブログ等による情報発信
- ・他団体との情報共有、親子・団体・市とのつながり

＜ワーク4：市にしてほしいこと＞

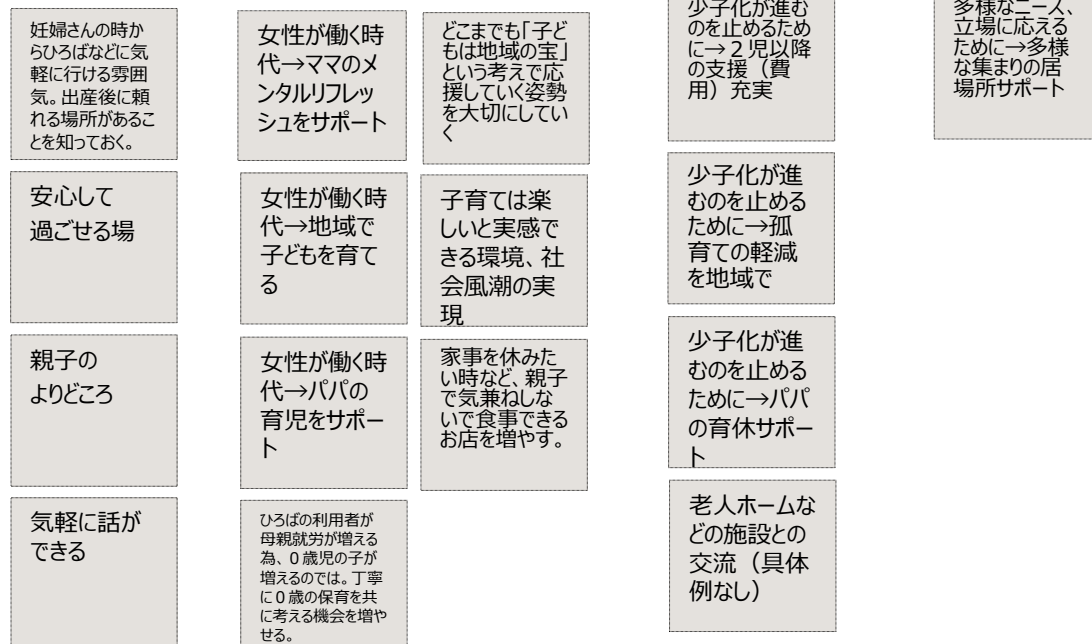
- ・福祉、子ども、教育分野の包括的支援
- ・横のつながりでの障がいや貧困家庭への支援
- ・市の部署や学校、その他公的機関、官民の枠を超えた連携
- ・ひろばや預かりの拠点施設の充実
- ・障がい、発達に関わらず遊べる・集まれる施設
- ・児童館、公園の設置、空き家・空き教室利用
- ・子育てを応援する商店等へのサポート
- ・子育て応援券
- ・支え合いポイント制（しくみ作り）
- ・人材育成、市民力の活用
- ・支援＝ボランティアという仕組みや意識を変える
- ・子育て専門の相談員を増やす
- ・支援者研修、処遇改善
- ・地域団体の立ち上げへの支援、補助事業
- ・第2子以降の経済的支援
- ・市内在勤者の子どもへのサポート
- ・一時預かりの充実、託児付きイベント
- ・父親の育児参加促進イベントの開催
- ・きめ細かい情報提供、情報発信
- ・情報のプラットフォーム

●ワーク3・4 各グループのキャッチコピーと出された意見

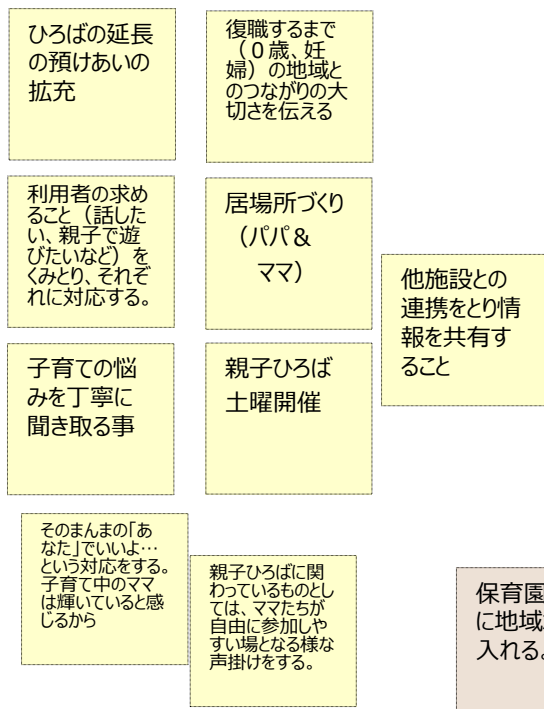
グループ1

「働く女性の増加と少子化対策を見据えて＜行政・地域＞ができること」

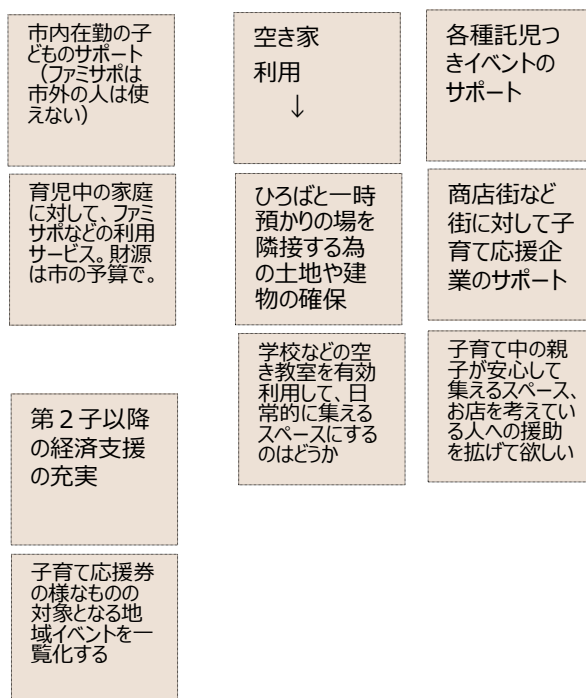
＜ワーク3：子育て支援のあるべき姿＞



＜ワーク4：私たち（団体）ができること＞



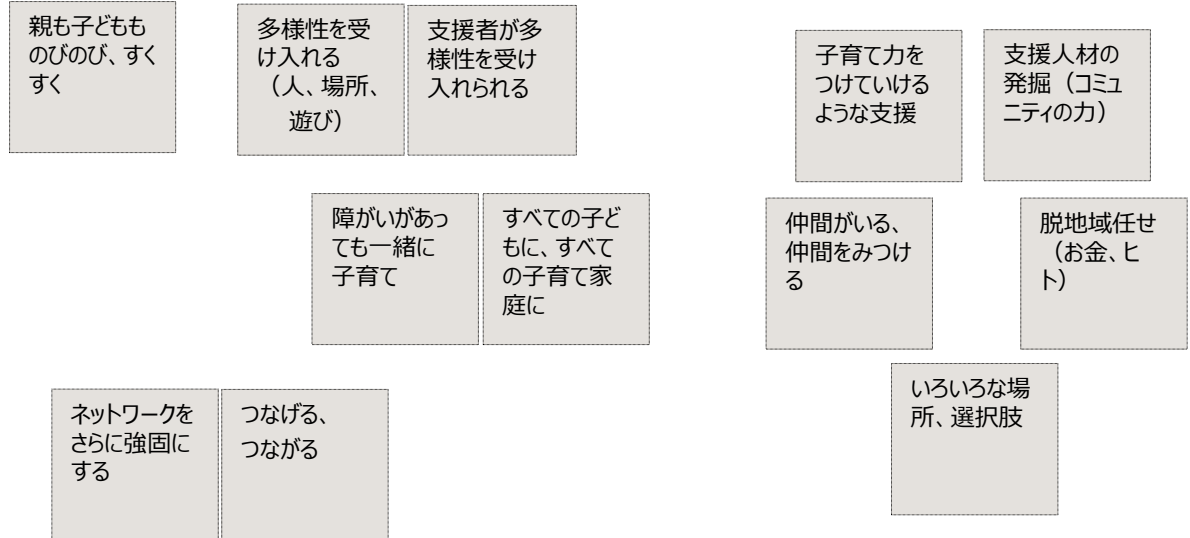
＜ワーク4：市にほしいこと＞



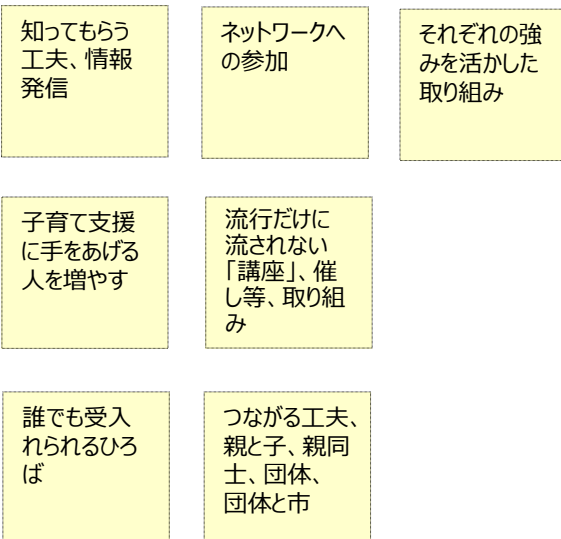
グループ2

「みんなとみんなでみんなのむさしのし」

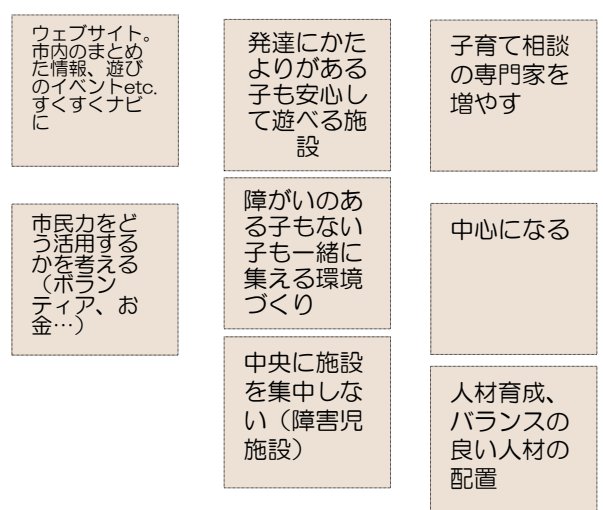
＜ワーク3：子育て支援のあるべき姿＞



＜ワーク4：私たち（団体）ができること＞



＜ワーク4：市にしてほしいこと＞

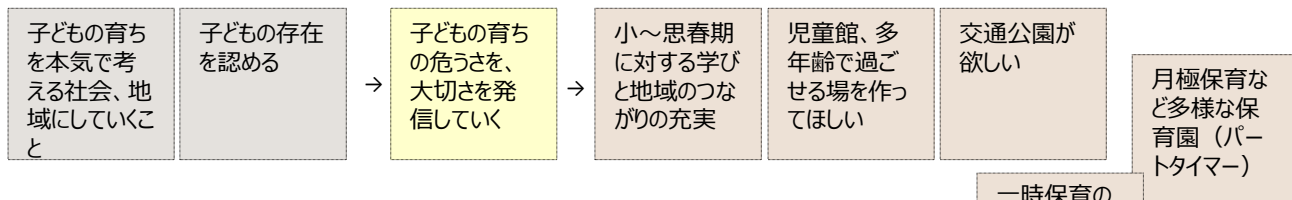


グループ3

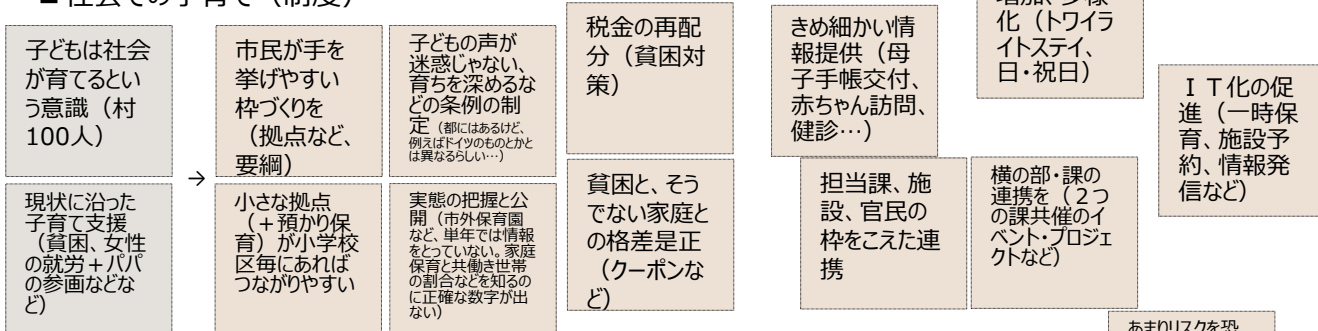
「むさしの子ども子育て総活躍！」

＜ワーク3:子育て支援のあるべき姿→ ワーク4:私たち（団体）ができること→市にしたいこと＞

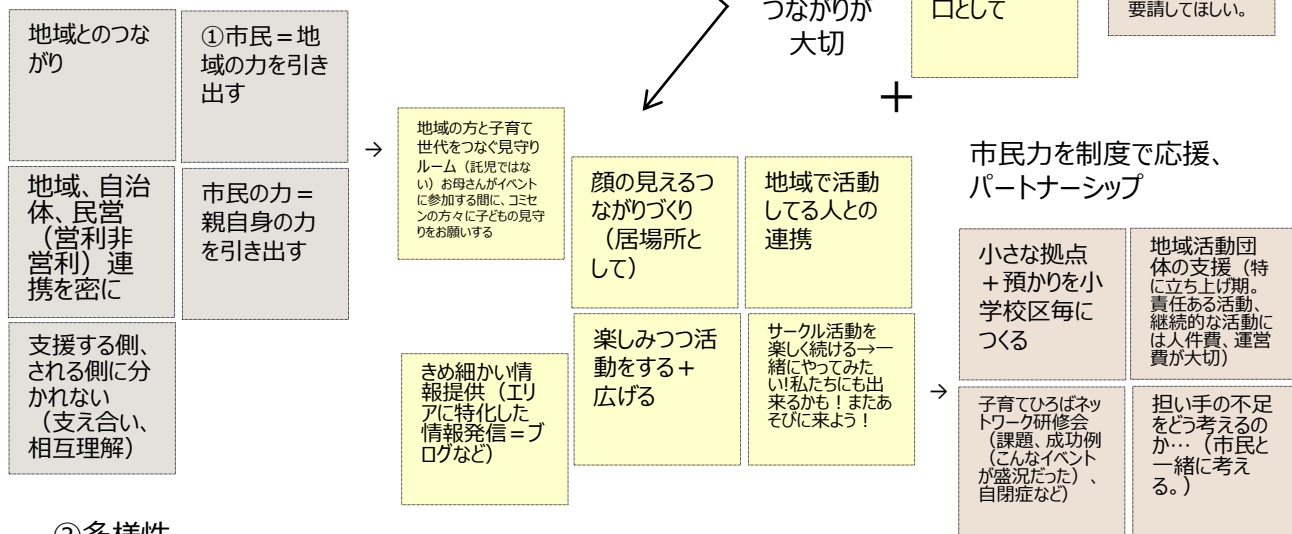
■子どもの育ち



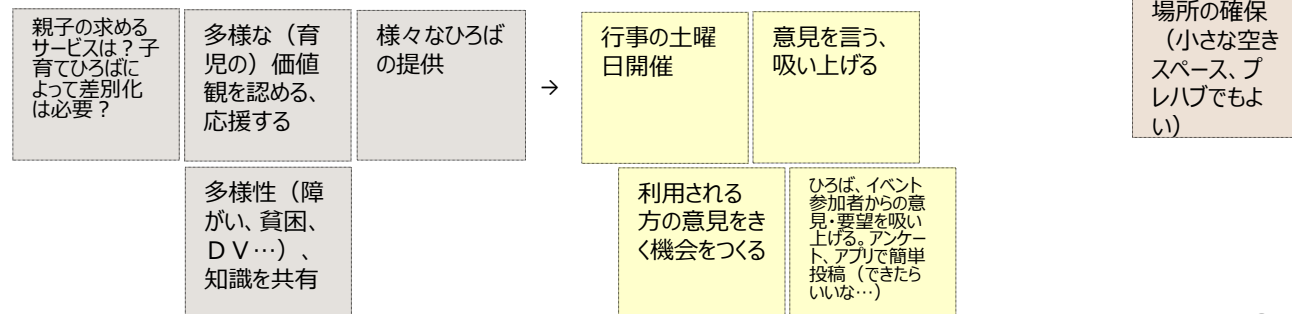
■社会での子育て（制度）



■①社会での子育て（市民力）

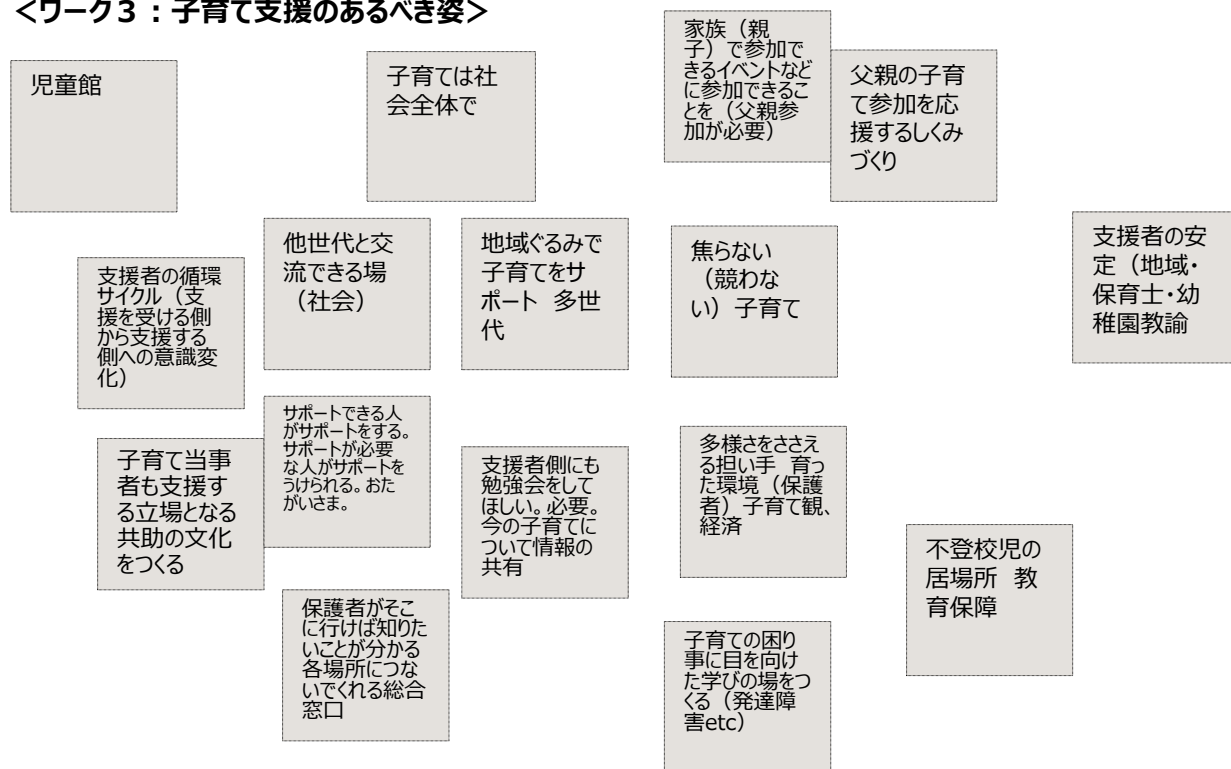


②多様性



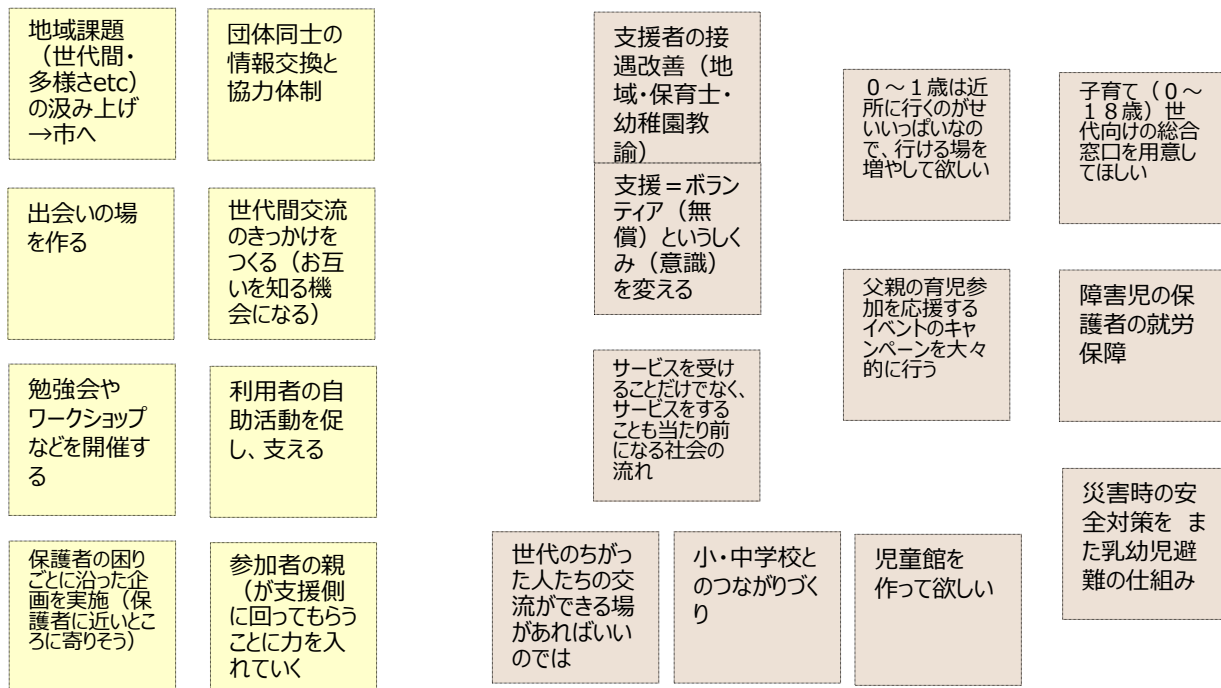
「子育ての多様化&多世代交流」

<ワーク3：子育て支援のあるべき姿>



<ワーク4：私たち（団体）ができること>

<ワーク4：市にしてほしいこと>





<グループ1>



<グループ2>



<グループ3>



<グループ4>



<グループ5>

**「第五次子どもプラン武蔵野」策定に係る
子育てひろばネットワーク ワークショップ
—実施報告書—**

平成31年3月

武蔵野市 子ども家庭部 子ども政策課